

泣きだした女の子

この前の日曜日、わたしは公園へ、絵をかきに行きました。

天気がいよいよいいか、ブランコに乗っている子たち、バドミントンをしている子たち、砂遊びをしている子たち、みんな楽しそうに遊んでいました。

わたしは、木かげのベンチに座^{すわ}って、絵をかき始めました。

ときおり犬を連れのおじさんや、ベビーカーに小さな子に乗せたおばさんが、絵をのぞきこむようにしながら通り過ぎていきました。

だいたい下絵ができ上がったときのことです。

いつの間に近づいてきたのか、赤いくつをはいた小さな女の子が、ここにこしながら、わたしを見つめています。少したつと、今度は、よちよちとわたしの方へ向かって歩いてきました。

（あつ、そこにくぼみがあるのに……。）

と思ったとたんに、くぼみに足をとられて、転んでしまいました。女の子は、転んだしゅん間は泣きませんでした。顔を上げてわたしを見たとき、「ああん」と、泣きだしてしまいました。

わたしは、無意識のうちにな女の子に近寄り、だき起こしました。そして、手のひらや服のよごれをはらってあげました。幸いなことに、女の子は、けがをしていませんでした。しかし、女の子は、前よりも大きな声を出して泣き続けています。

どうしようかと、とまどいながら辺りを見回すと、十五、六メートルほど先に、女の子の母親らしい人が、じつとこちらを見つめています。

そして、わたしに向かつて、「ありがとう。」と言うように、軽くえしゃくをしました。わたしも、軽く頭を下げました。わたしは、女の子を、母親のいる方に向けてやりました。すると、母親のいる場所に気が付いた女の子は、泣きながら、前るときより足早に、母親に向かって歩きだしました。

あまり足早に歩いたせいでしょう。女の子は、母親から二、三メートル手前で、また転んでしまいました。

わたしは、母親が当然、すぐにだき起こすだろうと思いました。ところが、母親は、やさしい表情で女の子のそばに行き、ひと言ふた言声をかけただけで、いつこうにだき起こす様子がありません。

（どうして起こしてあげないのだろう。冷たい母親だ……。）

わたしは、割り切れない気持ちで、じつと母親の様子を見守っていました。いつまでたっても手助けをしない様子に、わたしは、いらいらしてきました。母親は、じつとやさしい顔で、女の子を見つめてい

るだけです。

女の子は、やがて自分の力で立ち上がり、母親にすがり付いていき
ました。母親は、やさしい顔つきで女の子をだき上げ、ほおずりをし
ました。

女の子は、すぐに泣きやみました。

わたしは、こしを下ろし、再び画板をひざの上に置きました。

女の子の母親は、やさしそうな目でわたしを見つめ、ゆっくりとし
た足取りで、公園の出口の方へ歩いていきました。小さな女の子は、
その後ろを、よちよちと歩いていきます。

わたしは、その姿を見ながら、本当の思いやりの意味が分かった
ような気がしてきました。

(町田幹夫の作による)

『小学校道徳6年』大日本図書 平成三年度版

「泣きだした女の子」

名前

公園の出口の方へ歩いていく母親の姿を見ながら、

「わたし」はどんなことを感じたでしょうか。

Blank writing area with vertical dashed lines for the first part of the worksheet.

「本当の親切」について思うことを書きましょ。

Blank writing area with vertical dashed lines for the second part of the worksheet.

